

## 「東北花ハイク」鳥海山山行報告

【期 日】 7月16日（土）前夜発

【参加者】 CL 菊池、小倉(時)、小倉(笑)、井上(里)、加藤(記録)

【行 程】 銚立登山口 6:00 山頂(新山)11:30 銚立 17:00



【報 告】 前夜 20:20 酒々井発、3:00 過ぎ酒田港付近の風力発電のプロペラが回転する堤防のすぐそばにテントを設営し、1, 2時間仮眠した。翌朝、鳥海山は朝焼けに映え、裾野を長く伸ばし聳え立っていたが、瞬間に雲に隠れた。



象潟から「鳥海ブルーライン」を通り銚立へ。広大な駐車場、宿泊施設が完備し、6:00 登山開始、展望台から深く切れ落ちた奈曾溪谷と滝、遥か向こうに山頂の新山が俯瞰できた。振り返れば日本海と島もよく見え予想以上の好天の中のスタートであった。

笹の中に敷かれた石畳みの道が続いたがすぐに登山道となった。



よく整備された道には多くの登山者で賑わっていた。北国であるため樹林帯はなく、やがて雪溪が見えるようになると高山植物帯となり、雪溪からの清水が流れ



る所で小休止。辿り着いた御浜小屋の向こう側にはニッコウキスゲの群落の中に黄緑のバ



イケイソウ、黄色のトウゲブキ、ピンクのシオガマ(四つ葉のほか、五つ葉、六つ葉もある)、ハクサンフウロ、さまざまな花が咲き乱れ、火口湖の鳥海湖と見事なコントラストを描いていた。



CLのKさんは居合わせた若い女性と山スキー談義に余念がない。広い尾根をいったん下り、登り返すと千蛇谷への分岐部：七五三掛(しめかけ)でありそこには、北海道と東北にしか見られないイワブクロが我々を迎えてくれた。



外輪山コースと雪溪を行く千蛇谷コースに二分する。我々は往きを雪溪コース、帰りを外輪山コースに決めた。足元に留意して雪溪に降り



立つと傾斜は緩く、登山道は雪渓を横切っているが、我々は雪渓をどんどん登りつめて行った。新山に近づくと岩場となり大物忌神社の背後から



登るルートは宝剣岳のような足場の悪い岩場になった。最後に岩が裂けたような隙間を下って登り返せば狭い山頂である。私は以前5月に山頂に来たが、雪で覆われた方が登り易い。慎重に山頂から下り、急な雪渓を下ってから外輪山に向かうルー

トに入る。



雪渓を横断し、七高山の近くを急登し外輪山に向かう。ガイドブックには痩せ尾根と載っているがこの時期は全く問題なし。むしろ多くの高山植物が迎えてくれた。固有種のチョウカイフスマ、紫のイワブクロ、特にハクサンシャクナゲは群落になっており対岸の尾根まで白く

点在している。このころから小雨が降り出したが、しばらくした後止んだ。



七五三掛まで来たらあとは往路を忠実に下るのみ。御田ヶ原では霧の中に1メートル位のチョウカイアザミ(固有種)が赤黒い花を下に向けて立っていた。御浜小屋を過ぎ、なだらかな道をひたすら下って登山口の鉾立に戻った。花の撮影、観賞のため所要11時間であった。



下山後は松林の中の象潟海水浴場キャンプ場に立ち寄り、松ボックリを取り除いてテントを設営した。その後道の駅「象潟ねむの丘」の展望風呂に立ち寄った。晴れていれば日本海に沈む夕日を眺めることができたが今回は叶わず。キャンプ場に戻り、Oさん夫妻の自家製のトマト、きゅうり等の野菜とマックスバリューで買い込んだ刺身等の海の幸(岩ガキなし)を頂いた。就寝前大量の蚊がテントに入り込み参った。深夜、テントを打ち付ける雨の音で目を覚ました。月山の登山を中止し、酒々井駅に戻ったのは14:00過ぎであった。